

1969年2月8日 F104J ジェット戦闘機墜落

ジェット機墜落を繰り返すな！ その原因の根拠である小松基地を撤去するぞ！と、闘いを継続し、取り組んでおられる青年・女性部の皆さんに敬意を表します。

同時に、このような事故を再び起こさないために、なぜ起こったのか、再び起こさないためにはどうすればいいのか、を問い続けている姿勢に対しても敬意を表します。

若干、自己紹介をかねて2.8ジェット機墜落事故を振り返ってみたいと思います。ちょうど45年前となりますが私が19歳の時です。当時大学浪人中であり、自宅で昼食をとっていたときでした。耳をつんざくような「**一瞬**」の**轟音**と直後の静寂。

あまりの怖さに我が身を畳みに伏せました。コースは野々市方面から泉一丁目ですので、我が家の上あたりを通過したものと思います。「今の音はなに！」と母親と顔を見合わせました。まさか「**ソ連のミサイル?**」、と真剣に思いました。

その二年後、1971年4月1日県職労組合員となり、その二年後の73年2月、ジェット機墜落抗議集会に参加しました。墜落から4年後のことです。

その時の感想は、警察は、デモ隊を「守ってくれない」ものなのだ、そんな存在なのだということをはじめて知ったことです。ふたつ目は、集会参加者のなかに中学校時代の先生がいたことでした。この二つがその後の人生を変えたのだと思います。

81年(31歳)までは毎年参加していました。県職労青年部書記長のときには70名が参加があったことを覚えています。78,79年だったでしょうか。その勢いで、県庁舎裏から中央公園の小公園まで無届けデモをしてしまいました。

「黒こげの腕がころがっていた！」

「金沢市泉二丁目を南北に貫く、幅三メートルほどの旧北国街道に戦闘機は落ちた。五十メートルほど先を歩いていた六十五歳のおばあちゃんは電柱に吹き当てられて、胴体、手、頭部にちぎられた。次いで猛火。五時間後に消えた時、三十五歳、四十九歳、六十六歳の主婦三人が、身元がわからぬほどに焼けて見つかった」と報道されていた。 **民家17戸全焼/住民4名死亡**

墜落した時間は正午でしたが、丁度墜落した地域の**町内の慰安会**があり、ほとんどの家が留守だったことが人の被害を小さくした。子ども達も学校や保育園に行っていて難を逃れた。 **大惨事寸前!**

後日談ですが、自衛隊の責任者がやってきて「家を新しく建ててもらい、新しい奥さんももらえて、なお良かったらう・・・」と記者に言って大問題になったそうです。遺族の強い抗議と世論の非難をあびて辞任させられたらしいが。 (2009年、40年目の記事 北国新聞より)

さて、F104Jジェット機の墜落原因は何か？

民間機が悪天候(雷など)で飛行をやめているなか、小松基地から戦闘機は飛んだ。当時は、アメリカによるベトナム戦争の真っ只中であり、日本の自衛隊も臨戦態勢だったのではないかと思います。その結果、訓練を強行し、事故は起こるべきして起こった事件でした。だから、原因は「雷」ではなく、訓練の強行なのです。

(原発と似てますね。3.11の原因は、地震でも配管破断でもなく、原発を動かしたことなのです。)

平和運動センター青年・女性部の前身である県評青年部の先輩たちは、事故直後から「**墜落糾弾!**」「**小松基地撤去**」を掲げて闘争に立ち上がり、それが今も続けているのだと思います。



43周年の2012.2.8集会
事故後、反原発を訴えている
福島の酪農家 長谷川健一さん
を招いた集会
(映像の牛死体はむごかった)

米軍の事故は繰り返されている！

宮森小学校米軍機墜落事故（沖縄県）

1959年6月30日午前10時40分頃に、アメリカ空軍のF100Dジェット戦闘機が操縦不能となり、パイロットは空中で脱出、機体は民家35棟をなぎ倒した後、石川市にある宮森小学校（現うるま市立宮森小学校）のトタン屋根校舎に衝突、さらに隣のコンクリート校舎を直撃し炎上した。

事故による火災は1時間後に鎮火したが、**死者17人（小学生11人、一般住民6人）、重軽傷者210人、校舎3棟を始め民家27棟、公民館1棟が全焼**するなど大惨事となった。

事故当時、学校には児童・教職員ら約1000人がいた。特に直撃を受けた2年生の教室の被害が最も大きく、火だるまになった子供達は水飲み場まで走り、そのまま次々と息絶えたと伝えられている。



**2.8闘争の意義を確認し、二度と悲劇を繰り返さないため
「解釈改憲」を阻止し、戦争を止めよう！**

(2.8闘争45周年 2.15「憲法改悪に反対する」集会 前段学習会)